

かゑらじと かねて思へハ 梓弓

なき数に入る 名をぞとどむる

四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第116号

令和2年9月8日

発行=四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

## 四條畷市制施行50周年記念協力事業

# 特別展「しじょうなわてと楠正行」を開催

期間：11/16～29 会場：四條畷市市民総合センター

### ● 期間中、展示解説も ●

四條畷市は、令和2年7月1日、市制施行50周年を迎えました。

私たち四條畷楠正行の会は、市制施行50周年を記念して特別展「しじょうなわてと楠正行」—四條畷楠正行の会の取り組み成果を中心として—を、来る11月16日(月)から29日(日)の間、市民総合センターの1階、ロビー、コミュニティスペース、展示ホールを会場に開催します。

私たちの会は、平成26年11月発足以来、毎月の例会と年2回程度の現地学習を通じ、郷土ゆかりの人物、楠正行について学び、顕彰活動を続けてきました。

この間、正行ゆかりの寺社仏閣との厚誼、更には私たちの活動を知った全国の楠氏ファンや正行ファンの方々から多くの情報や資料等が届けられています。

これらの手許に集まった軸物や拓本、正行の直筆データ等に加え、吉野如意輪寺・富田林楠妣庵観音寺発行の絵葉書を使った「小楠公一代記」や、朱舜水作楠正行像賛揮毫等を大型パネルにして一挙公開します。

また、期間中



### 小楠公一代記

文 吉野如意輪寺・富田林楠妣庵観音寺発行の絵葉書より  
四條畷楠正行の会 扇谷 啓

の土・日の4日間、寄贈いただいた小楠公墓所・正四位下檢非違使兼河内の守楠公碑掛け軸と菊水家紋入り瓦(小楠公墓所社務所屋根に使用)を特別展示します。

そして、11月22日と29日の日曜両日、午前10時と午後2時の2回、計4回、扇谷による展示解説(約1時間程度)も行います。

期間中の土・日の4日間、午前10時から午後4時までの間、「楠正行かるた」「正行像賛扇子」「論文集—小楠公」を販売します。

多くのご来場、お待ちしております。

### ■特別展

## しじょうなわてと楠正行

—四條畷楠正行の会の取り組み成果を中心として—

○とき 11月16日(月)～29日(日)

○ところ 四條畷市市民総合センター1階

四條畷市中野3-5-25

JR 忍ヶ丘駅下車・徒歩南へ8分

☎ 072-879-2121(代)

主催 四條畷楠正行の会

後援 四條畷市・四條畷市教育委員会

### ■主な展示内容

・小楠公一代記 A1 パネル8枚

絵は、吉野如意輪寺と富田林楠妣庵観音寺発行の絵葉書より、また文は扇谷作です。

楠正行の生涯を絵と文で分かりやすく展示・解説しています。

・小楠公真筆集 A1 パネル8枚



楠正行公国宣  
一三四七 河内 親心寺蔵

河内国小高瀬領家職、  
爲二御祈禱料所一、親心寺可レ  
令二知行一由事、延元五年  
二月廿三日諭旨如レ此、早可レ  
被下沙汰居寺僧上於二当所一候也、  
仍執達如件  
正平二年十二月十五日 左衛門尉  
和田左衛門尉殿 (花押)

(読み下し)  
二月二十三日に発せられた後村上天  
皇の諭旨により、正行公が親心寺に、  
茨田郡小高瀬領家職を二祈禱料所とし  
て知行を下知せられた旨を和田助氏に  
発したものと、延元五年の国宣とは同一  
内容で、正行公四條畷合戦戦死の二十  
日前の文書である  
原寸 縦26.36センチ 横37.27センチ

正行は直筆の国宣や書状を遺しています。

原典は、湊川神社社務所蔵版データから転載したもので、解説として釈文・読み下し文を展示しています。

#### ・楠正行ゆかりの史跡 A1 パネル7枚

正行ゆかりの地として、四條畷神社・小楠公墓所・和田賢秀墓（四條畷市）、桜井駅跡（島本町）、宝篋院（京都市）、如意輪寺（吉野町）、渡辺橋（大阪市）、建水分神社（千早赤阪村）の正行ゆかりの史跡を写真と解説文で展示します。

#### ・四條畷合戦要図 A1 パネル1枚

扇谷の小説「楠正行」挿入図です。

#### ・四條畷の合戦、激闘の6時間 A1 パネル1枚

正平3年1月5日、巳の刻（午前10時）に始まった四條畷の合戦は、申の刻（午後4時）までの間、1日6時間の激闘が繰り広げられました。

この日、5期にわたる衝突が、どこで、誰と、どのように繰り広げられたかが分かる内容となっています。

#### ・村瀬栲亭撰「正四位下検非違使兼河内の守楠公碑」

文化6年（1809）、小楠公墓所境内に「正四位下検非違使兼河内の守楠公碑」が建立されました。展示する掛け軸・拓本は、吉田松陰の遺言を受けて品川弥次郎が創設した尊攘館旧蔵の維新資料コレクションの一つで、明治36年6月寄贈の軸物約300点の一品です。

拓本とともに、銘文・釈文を展示します。

掛け軸は期間中土・日の4日間、特別展示します。

#### ・朱舜水作楠正行像賛

朱舜水は、明末亡国の危機に際して東奔西走、終に日本に亡命して、徳川光圀に招かれ、水戸学に偉大な感化を与えた人物で、文武全才第一とその才能を謳われた傑物です。

万治3年（1660）、加賀の前田綱紀が狩野探幽に描かせた楠公父子決別図の賛を朱舜水に依頼、10年後の寛文10年（1670）、正成像賛3首と正行像賛1首を完成させます。

中国の書家、九思先生による揮毫（写真）と、釈文、略解を展示します。

#### ・四條畷市小字図

四條畷の合戦が行われた場所であることを示す小字が残っています。『古戦田』字地が、2か所、中野と雁屋に残っています。

#### ・正行辞世の扉 拓本

正平2年12月27日、四條畷の合戦を前に、正行は吉野に詣で、後醍醐天皇の墓に詣でた後、後村上天皇に別れの挨拶をしたうえで、如意輪寺本堂に遺髪を奉納し、板扉に辞世の歌を刻します。

辞世の歌を刻した板扉は、如意輪寺の宝物殿に展示されていますが、その拓本を展示します。

#### ・菊水家紋入り瓦

楠氏の家紋は菊水です。

菊水家紋は、通常、上部に菊、下部に水流が描かれ、その流れは「左から右に」となっています。

しかし、正成亡き後、久子

の方が、再び楠氏の隆盛を願ってこの水流を変えたとの伝承があり、正行ゆかりの寺社には「右から左に」流れる逆水流の家紋が残っています。

四條畷では、小楠公墓所境内にある社務所の瓦に、この「逆菊水の瓦」が残っています。展示する瓦は、四條畷神社から私たちの会に寄贈を受けたものです。

期間中、土・日の4日間特別展示します。

(文責『四條畷楠正行の会』代表 扇谷昭)

#### 楠正行ゆかりの史跡

